

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国際文化論入門 Cultural Studies		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国際関係論入門				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
金井尊史				授業中に指示します
授業の概要				
世界の文化について、広く浅くあらゆる事柄を包括的かつ多角的に学び、現在の世界の状況の把握を可能ならしめる。				
授業の目標				
世界の文化的側面を中心に学ぶことにより、現代のグローバル社会を多角的に理解できるようにする。				
授業の方法				
随時プリントを配布して参照しながら解説する。 学生は授業中に授業内容や資料に関する質問に答えながら各回の授業のまとめをしていく。				
学習の成果（学習成果）				
①国際社会の営みにおける文化の役割を理解できる。 ②文化を通して国際社会の現況を把握できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	文化の枠（1）カルチュラル・スタディーズとは何か			
第3回目	文化の枠（2）記号と解説			
第4回目	神話と文化（1）ギリシャ神話			
第5回目	神話と文化（2）ローマ神話			
第6回目	宗教と文化（1）ユダヤ教			

第7回目	宗教と文化（2）キリスト教
第8回目	宗教と文化（3）イスラム教
第9回目	中間試験
第10回目	ヨーロッパのあゆみ（1）キリスト教世界の形成
第11回目	ヨーロッパのあゆみ（2）ヨーロッパ各国の起源
第12回目	ヨーロッパのあゆみ（3）中世の社会 - 農村と都市 -
第13回目	ヨーロッパのあゆみ（4）中世の文化とルネサンス運動
第14回目	ヨーロッパのあゆみ（5）宗教改革運動と宗派体制の確立
第15回目	授業内容のまとめ・試験の説明（模擬試験）
事前・事後学習	不明な点は、次回までに調べておくこと。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	40%	教材を常に準備して受講している。授業に集中してノートを取っている。不明な点に関し積極的に質問している。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	授業内容に関し出題する。出題者の意図に合致した回答をしているか、事実を正確に把握しているか。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

なし（毎回レジュメを配布）

履修上の留意点・ルール

課題意識を明確にして受講すること。遅刻、無断欠席厳禁。
